



新年のご挨拶



病院長 新家 眞

新年あけましておめでとう御座います。皆様の令和2年のご健勝を心よりお祈り申し上げます。昨年度の冬はラニーニャ寒冬と言われた一昨年度の冬とは一転して暖冬でした。今年度の冬はやや暖冬という気象庁の予測でしたが、12月前半に限ってみれば、例年より寒めのようで、11月から流行していたインフルエンザに対して、特に心を引き締めなければいけない冬となりそうです。

さて2020年度(令和2年度)は十二支では庚子(カノエ・ネ)となります。子は本来は「孳」という字で、新しい生命が趣旨の中に萌し始める状態とされ、庚は陰陽五行説で「金の陽」とされているという訳で、庚と子はお互いに相手を強めあう関係があるらしく、庚子の年は、「変化が生まれ、新たな生命が萌し始める状態」という事になるそうです。要するに十二支で計算される60の年の内では「新しい事にチャレンジするのに適した年」と解釈されているようです。古代中国人が考え出した単なるこじつけと言ってしまうとそれまでですが、日本に水田稲作文化＝弥生文化が根付き始めたような時代に、既に大陸ではこのような未来予想に結びつく思想が考え出されていたのは、興味ある事だと思います。又現代の中国でも干支十二支で考える限り「日本では子年だが、中国本土では酉年だよ。」という事はあり得ず全く同じ庚子の年な訳ですから、同じような解釈をもって中国共産党も2020年を見ている事になります。

さて、2020年(令和2年)は日本と東京が第32回夏季東京オリンピック開催の出来栄をもつて評価される年でもある訳です。一方当公立学校共済組合関東中央病院も5回目の病院機能評価(一般病院2<3rd G:Ver, 2.0>)を受審する年でもあります。病院機能評価とは、5年に一度行われる病院にとっての期末試験のようなもので、日本医療機能評価機構が病院を対象に、全体の運営管理及び提供される医療について科学的且客観的評価を行う仕組みです。ポイントは「患者中心の良質な医療が健全な組織運営の元に行われているか?」という点に注目して、病院の質の担保とその質の更なる改善が行われる事を支援するということにあります。そのためには当然ですが、直接医療に関係する業務だけではなく、病院の管理・運営＝所謂事務方の業務も評価対象となります。この病院機能評価により合格する、即ちその「認定病院」となるという事は、「地域に根ざした安全・安心・信頼と納得の得られる医療サービスを提供できていて、且それを更に改善すべく日常的に努力している病院」と科学的・客観的に評価された事になるわけで、患者紹介・受診に際しての重要な指針となり得るものです。病院機能評価は全国に約8400ある全ての病院(ベッド数20床以上、医師数3名以上)ではなく、その3割が認定を受けているにすぎません。

令和2年(2020年)において当院は、病院機能評価(一般病院2<3rd G:Ver 2.0>)を更新し、人口約90万人の世田谷区唯一の地域医療支援病院としての更なる充実を目指して、職員一同心をひとつにして務めていきたいを思っています。令和2年が、その十二支の「庚子」の意味「変化が生まれ、新しい生命が萌し始める状態⇒新しい事にチャレンジするのに適した年」を十分に活用できる年となるよう、又、皆様にとっても病院にとっても素晴らしい一年となるように祈っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。